

項目		説明
試料・情報の利 用目的 及び 利用方法	研究課題名	薬物治療中の大腸癌における RAS 遺伝子変異の頻度に関する研究
	研究目的	薬物治療は、進行再発大腸癌の症例に対して広く使用されています。薬剤選択については、手術検体の組織の遺伝子変異に基づき薬剤が選ばれますが、近年、薬物治療を施行することで、その遺伝子の変異型が変化する可能性が指摘されています。RAS 遺伝子変異解析キット（OncoBEAM RASCRC キット）は 2020 年 8 月に保険償還された、血液より RAS 遺伝子変異を同定することができる検査で、今回、これらの検査結果を用いて、進行再発大腸癌症例の薬物治療中の RAS 遺伝子変異の頻度について検証します。
	研究対象者	2020 年 8 月から 2021 年 3 月に対象の検査を施行した症例
	研究期間	西暦 2020 年 12 月 14 日 ~ 西暦 2022 年 3 月 31 日
利用する試料・情報の項目 (チェック[X]が入った項目を利用します)		<input checked="" type="checkbox"/> 血液 <input type="checkbox"/> だ液 <input checked="" type="checkbox"/> 臨床検査データ <input checked="" type="checkbox"/> 病理組織 <input type="checkbox"/> 排泄物 (尿・便) <input type="checkbox"/> その他 (記載して下さい) <input type="checkbox"/> 毛髪 <input checked="" type="checkbox"/> 診療記録
試料・情報の管理についての責任者	当センター 研究責任者	消化器外科 佐藤純人
試料・ 情報を 利用す る者の 範囲	当センターでの実施診療科/部局等	消化器外科
	共同研究の場合、共同研究機関および各施設での研究責任者	なし